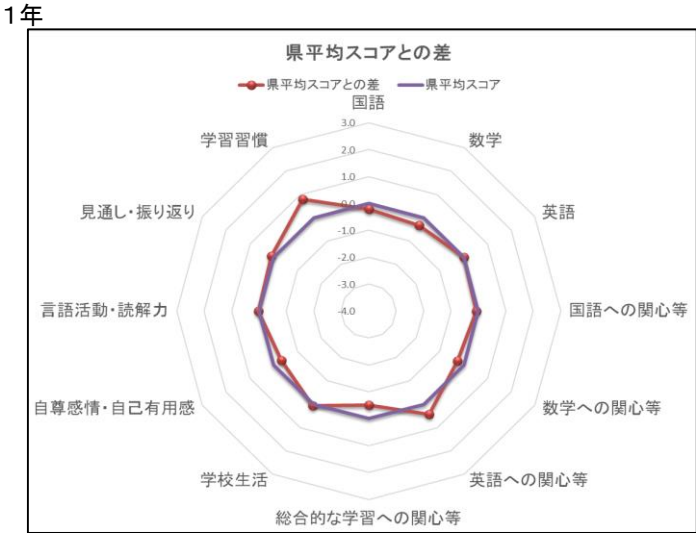


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立湖東中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

成果と課題(○:成果、●:課題)			対策
1年	国語	○常用漢字の読みについてはほぼ達成できており、事実を踏まえて自分の考えを話す力もある。 ●根拠を明確にし、文章の構成を考えて相手に伝えるように書く力が劣っている。書くことに対して抵抗がある。	・授業や学習大会を利用して、既習の漢字や言語事項について確認、復習する機会を増やす。 ・授業の中で、自分の考えを整理し文章にまとめる活動を設定する。また、定期試験では作文問題のテーマを事前に知らせることで、全員が作文に取り組めるようにする。
	数学	○正負の数の意味を理解し、平均を求める力は定着している。 ●県と比較すると、資料の活用、数と式領域に課題がある。 ●観点では、数学的な技能に課題がある。 ●分配法則、式の値、分数、方程式の立式など基本技能の定着に課題がある。	・分配法則、式の値、分数、方程式の立式などの課題分野を再学習する。 ・家庭学習の習慣がついてきているので、家庭学習等でも繰り返し練習できるよう課題を出す。 ・資料の活用では、基本的内容も振り返りながら学習する。
	英語	○言語、文化についての知識・理解や表現などの基礎・基本の問題はほぼ達成できている。 ●長めの英文の聞き取り問題や対話の流れをふまえた英作文等、課題に対して自分の考えをもち、それを英文で書くことに苦手意識のある生徒が多い(無回答率が高い)。	・暗唱や単語テスト等を今後も継続して行うとともに、書くことが苦手な生徒に対してのフォローアップも更に充実させる。 ・既習事項の復習として、毎時間口頭で自分の考えを伝え合う活動をしているが、今後は更にそれを英語で書く作業も取り入れていく。
2年	国語	○100字以上の作文に対する抵抗感は少ない。 ●読むことはできて、日常的に書く機会のない漢字がある。 ●文章を読み取って、自分の考えをまとめる力が弱い。	・辞書を積極的に活用する習慣を身につけ、分からない漢字を見過ごさない意識をもたせる。 ・文章の内容を読み取らざるを得ない状況を多くつくり、それに対する自分の考えをまとめる体験を増やす。
	数学	○計算力や知識を問う基本的な問題を解く力はある。 ○記述問題の解答力が上がっている。 ●一つ一つの内容の理解が不十分のため、答えを導くまでに見通しが必要な応用問題への対応ができない。 ●イメージ力に欠け、図形問題を苦手とする生徒が多い。	○基本問題については、くり返しの演習を続ける。 ○「なぜそうなのか」など、自分のことばで理由を述べる活動をこまめに続けていく。 ○関数や図形の問題では、ICT機器を活用し、動画や画像を見せながら問題をイメージさせ、生徒の思考の過程を支援する。
	英語	○リスニング(対話の応答)には苦手意識が低い。 ●長文の読み取りや対話の流れを踏まえた英作文に対して苦手な生徒が多い(無回答率が高い)。	・定期的に長文読解の時間をとり、長文になれさせる。 ・英関英答の活動の中で、答えるだけでなく、質問をする活動も入れ、英語で質問を考える機会を増やす。 ・書く作業への苦手意識は低いが、正しく書くことは苦手とする生徒が多いので回数を重ねることで自信につなげていく。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

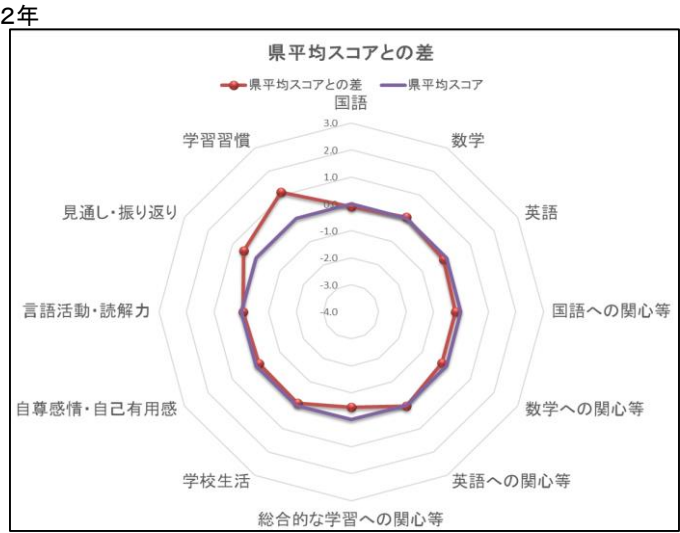


(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	63	31	64
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

受検者数
1年生 108 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	63	41	55
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
2年生 102 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

成果と課題(○:成果、●:課題)			対策
1年	授業改善に関わる事項	○授業のめあてを意識して見通しをもって取り組んでおり、学習規律もよく守られている。 ●自分の考えを表現するときや公式を理解するときなど、その理由や根拠まで考えることが不得意である。	・引き続きめあての提示を徹底し、振り返りの時間も充実させる。 ・各教科で、グループでの話し合いや説明などの言語活動を多く取り入れ、なぜそうなのかを自分の言葉で考え、伝えようとする意識を高める。
	家庭学習に関わる事項	○家庭での学習習慣が身につけている生徒の割合が高い。特に、宿題や復習に対する意識が高い。 ●普段の読書量が少ない一方で、携帯電話の使用時間が長い生徒が多い。	・引き続き、フスタ(自学ノート)への取組を徹底し、内容についてさらに充実するように支援をする。 ●普段の読書量が少ない一方で、携帯電話の使用時間が長い生徒が多い。読書の習慣を育て、よりよい生活習慣の定着を図る。
2年	授業改善に関わる事項	○授業においては話し合い活動が積極的に行われている。 ○授業時には「めあて」「ふりかえり」を明確にするようにしており、特にめあてをもって授業に参加することができている。 ●総合的な学習の時間については、一人ひとりがはっきりとした課題をもち、主体的・協働的に解決しようとするような課題設定ができていない。	・継続してグループ学習やペア学習に取り組んでいく。 ・比較的自己肯定感が低い生徒の学力が定着しておらず、授業中にも自己肯定感を高める授業を展開していく。 ・総合的な学習の時間については、3学年を見通し、自分・地域に関するよう課題を設定し、主体的に課題解決に取り組む授業を構築していく。
	家庭学習に関わる事項	○毎日の課題として自主学習ノートに取り組むこととしている。その内容は、その日の授業の振り返りを行うことにより、生徒の復習に取り組んでいるという意識の高さにつながった。 ●携帯電話の使用が毎日1時間以上という生徒は県平均より少ないが、一方で約47%の生徒が、毎日のメディア接触時間が2時間以上存在する。	・家庭学習をより充実させるために、現在行っている自主学習ノートの課題を継続させることに加え、受験対策用テキストを利用し、毎日の家庭学習の内容の充実を図る。 ・メディア接触時間については、講習会や学年通信等で生徒だけでなく保護者に向けなどでも啓発を行っていきたい。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

